

## [特別企画1]

インシデント再発防止に向けた危険予知トレーニング実施状況の  
可視化と手順の標準化

氏原恵子，高橋千代子，日比野高仁，木林典之，小野知子，中津留敏也，木下朝博  
愛知県赤十字血液センター

## 【はじめに】

愛知センター採血部門ではヒューマンエラー防止のため，平成26年度より指差し呼称を推進し，危険予知トレーニングに取り組んできた。しかし，献血ルームごとに取り組み方に差があり，セッティングミス件数は減少したものの同様事例が発生していた。平成30年度に実施しセッティングミスによる資材減損削減を目的とした危険予知トレーニングの定着化に向けての活動について報告する。

## 【対象および方法】

愛知センター採血課職員130名を対象とし，「情報」・「経験知」・「状態」・「目標」の見える化に取り組み危険予知トレーニングに活用した。

## 1 情報の見える化

インシデント情報の共有のため社内LANを用い，リアルタイムに情報や具体策の検討を行い，採血担当者へ共有するサイクルを続けた。

## 2 経験知の見える化

重複するインシデント情報についてはm-SHELL分析後，献血ルームごとに課題を決めインシデント防止手順を標準化した。作成した防止手順を活用し，全ルームで危険予知トレーニング時に確認ポイントの周知，行動目標の唱和を実施した。（図1）

## 3 状態・目標の見える化

危険予知トレーニング実施状況を可視化するためハビットトラッカーを作成し活用した。導入のメリットとは，目標・インシデント発生情報の把握，事例の疑似体験，危険予知トレーニングの実

施と正しい手順の定着化ができると考えた。（図2）

## 【危険予知トレーニングの実施】

危険予知トレーニングの実施状況を（図3）（図4）に示す。

## 【結 果】

セッティングミスによる資材減損発生状況は，平成30年度は前年比68.3%へ減少した。指差し呼称を開始した平成26年度と平成30年度の比較では資材減損件数は82件から24件へと減少し採血部門での取り組みにより年間約55万円以上のコスト削減に繋がった。ハビットトラッカーの導入効果についての意識調査では事例の疑似体験により，自身への注意喚起になったという回答が多く，リスクに対する感性が高まった。（図5）

## インシデント防止手順の作成方法

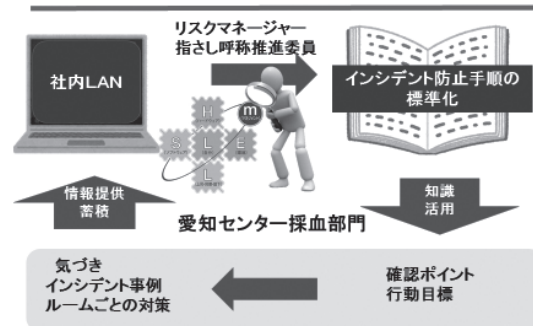
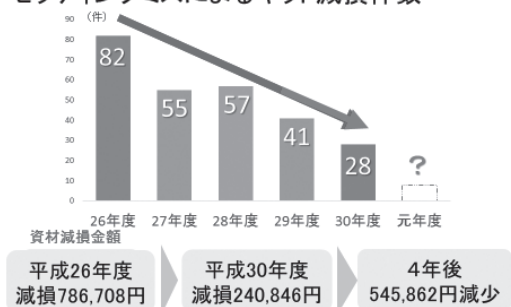


図1



## 結果1

## セッティングミスによるキット減損件数



## 結果2 職員意識調査

## ハビットトラッカー導入効果について

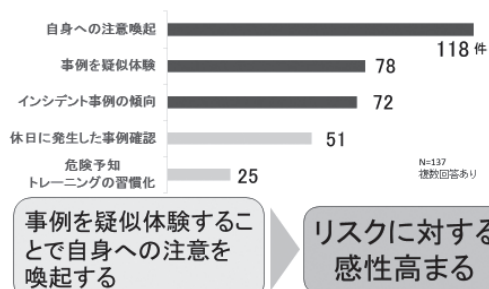


図5

## 【まとめ】

インシデント防止手順の見える化により危険予知トレーニングを実施する仕組みができ、手順確認後の採血業務が習慣化された。また、セッティングミスによる資材減損削減という共通の目標に

向けて採血部門が団結して取り組むことができた。

今後も危険予知トレーニングを継続的に実施し、インシデント情報から「気づき」「考える」「対話」「行動」が可能な人材育成に繋げていきたい。

## 文 献

- 1) 木林典之ほか：指差し呼称推進によるキット減損の削減，血液事業，41，865-867，2019
- 2) 吉原靖彦：なるほど！これでわかった 図解 よ

くわかる これからのヒューマンエラー対策，2017.10

- 3) 遠藤功：見える化 強い企業を作る「見える」しくみ，2015.9